

## 令和4年度第1回（第74回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和4年6月16日（木）15:00 ～ 17:00

場 所：Zoomによるウェブ会議

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、湯本公庸委員、清田修委員、杉浦信男委員、原田克之委員、  
木下泰三委員、植山淑治委員、中村知治様（八坂保弘委員代理）、安部田貞行委員、  
柳川博之委員、高田英治委員、新宅英司委員、蔦森秀夫委員、橋本克巳委員、  
矢内悠介委員、尾崎章幹事、  
オブザーバ：広崎膨太郎協議会前会長、鈴木義夫様（電気設備学会）

### 配布資料

資料 0-1	2022 年度 CPD 協議会会員名簿 2022.6.29
資料 0-2	2022 年度 CPD 協議会役員・委員名簿 2022.6.29
資料 0-3	CPD 協議会 運営委員会・広報委員会名簿 2022.6.29
資料 0-4	CPD 協議会 CPD プログラム委員会名簿 2022.6.29
資料 0-5	CPD 協議会 ECE プログラム認定委員会・ECE プログラム委員会名簿 2022.6.29
資料 1-1	令和3年度第4回（第73回）CPDプログラム委員会議事録（案）
資料 1-2-1	第39回（2022年度第1回）CPD運営委員会議事メモ
資料 1-2-2	2021年度ECEプログラム完了と2022年度への継続認定について
資料 1-2-3-1	03 理資 7-08：第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム開催報告
資料 1-2-3-2	第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム登壇者発言要旨
資料 1-3-1	第1回技術士CPD実績管理委員会議事録
資料 1-3-2	CPD実績管理委員会資料 20220420
資料 1-4	日本工学会 CPD ガイドラインの改訂

参考資料 日本工学会 令和4年度 事業計画書

### 議事

#### 0. 委員名簿の確認

- 資料 0-4 の内容を確認した。
- 新たに委員に就任された清田修委員（空気調和・衛生工学会）からご挨拶を頂いた。

#### 1. 前回議事録の確認

- 資料 1-1 により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。

## 2. CPD 協議会運営委員会（第 39 回）報告

- 資料 1-2-1 により、CPD 協議会運営委員会の議事内容が報告された。

## 3. 日本技術士会／技術士 CPD 実績管理委員会報告

- 資料 1-3-1、1-3-2 により、技術士 CPD 実績管理委員会の議事内容が、高木委員長から報告された。
  - 公的な技術士 CPD 実績登録制度が開始されたことを受けて、事業を管理する委員会が技術士会以外の第 3 者の委員を含めた形で発足し、第 1 回の委員会が開催された。
  - 初年度である 2021 年度の登録実績、審査（試行実施）実績などが報告された。
- これについて、以下の質疑・応答があった。
  - 技術士会の会員でない技術士への制度の周知は十分に行われているか。  
→詳細は承知していないが、業務独占資格ではないので、管理は難しいものと推察している。

## 4. 日本工学会 CPD ガイドラインの改訂

- 高木委員長から、資料 1-4 により、見直し・改訂方針が説明された。
  - 事前の整理事項として、技術士制度検討が技術士に留まらず広く技術者全般に関わる議論にも繋がることの認識のために日本工学会事業計画の記載事項、技術士法における技術士の定義、その他、国際エンジニアリング連合（IEA）による CPD の用語定義を確認した。日本工学会 CPD ガイドラインにおいても CPD の用語定義が必要と思われる。
  - 国際標準、国際動向の反映については、PC：Professional Competency（専門職としての知識・能力）への言及が考えられる。国際エンジニアリング連合（IEA）が策定した PC（2009 年版：MEXT 調査研究による翻訳あり）、技術士に求められる資質能力（MEXT/技術士分科会）、さらに IEA が策定（改訂）した PC（2021 年版：エンジニアを SDGs への重要な貢献者と位置づけ）などがある。そのまま参照するかは別として、何らかの形で盛り込みたい。
  - 産業界のニーズという観点では、昨年日本工学会公開シンポジウムでの、東大/藤井総長や日本ディープラーニング協会/理事の講演で述べられた考え方も取り入れて行きたい。
  - 上述および新たなポイントについて、ご意見を頂きたい。
- これについて、以下のコメントがあった。
  - 見直し、産業界との連携強化は良いこと。一方、現実に起こっていることを認識することも重要。日本企業の研究開発投資の低迷（増えたと言っても、電機大手 7 社合計でサムソン 1 社に及ばない）、学会の会員（特に産業界の会員）の減少など。これらのリアリティーに対する解決策が盛り込まれると更に良い。
- 本件に関する質問・ご意見はメールで委員長または幹事まで連絡頂きたい。次回には、少し

ドラフトしたものを用意したい。

## 5. その他

- 高木委員長より、資料 1-2-3-2 について補足の説明があった。
  - 第 3 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムについては、前回の本委員会でも報告済であるが、記録に残すべきとの CPD 運営委員会での指摘もあり、新たに登壇者の発言要旨を整理した。日本工学会の内部資料の位置づけとしホームページでの公開は考えていない。
  - 前半は、技術者のダイバーシティをテーマに、ジェンダーバランスや文化的ダイバーシティ、アンコンシャスバイアスなどの議論が行われた。後半のカーボンニュートラルへの挑戦では、技術だけでなくビジネスモデルの開発の重要性の指摘、水素なども現在は日本がトップランナーであるが、追いつかれないためには従来と発想を変える必要があるのではないかとの指摘があった。
- 次回については、別途日程調整を行う。

以上